

「おしやれキャット」を読んで

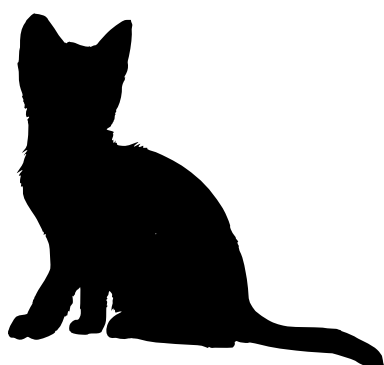
二年生

父

パリでお金持ちのおばあさんと幸せに暮らしていた猫たちが、お金がきつかけで悪い執事に遠くに置き去りにされて、おばあさんの家まで帰り道がわからないネコ達だったが、親切なノラネコのオマリーに、道案内をしてもらい、その旅路で、多くの経験と友達ができ、無事におばあさんの家に帰ることができたが、また悪い執事に捕まってしまった。しかし、旅で出会った仲間たちに助けられ、執事を退治することができた。

子

おしやれキャットを読んでみて、執事のおじさんは、とてもひどいことをするなあと思いました。でも、最後は、みんな幸せに暮らすことができてよかったです。僕には、0歳4か月の弟がいます。ノラネコのオマリーのように、弟を守って、家族みんなでこれからも仲良く暮らしたいなあと思いました。



「おしやれキャット」を読んで

二年生

母

「おしやれキャット」の本を読んでどうだった？

子

始めは悲しかったけど、最後はうれしかった。

母

悲しかった所と嬉しかった所はどこだった？

子

「私が死んだら、この家とお金は、ネコ達にゆずるわ。ネコ達が死んだら、エドガーにあげるつもり。」というおやしきのおばあさんの話をエドガーが聞いて、ネコ達を町のはずれに置き去りにした所が悲しかった。嬉しかった所は、ネコ達が無事に帰ってきて、おばあさんが大喜びでダッチェスやオマリーたちを抱き上げて、猫たちみんなに家を建ててあげた所。

母

ネコたちは町はずれにおきざりにされたけど、無事に帰ってこれたのはどうして？

子

オマリーや他のネコたちが、ダッチェスを助けてくれて、おやしきまで連れて行ってくれた。

母

他のネコたちの助けがあったから、無事に帰ってこれたんだね。もし、自分がダッチェスだったらどんな気持ちになる？

子

私だったら、うれしい気持ちになるし、「ありがとう」と思う。

母

そうだね。助けてくれたら嬉しいし、「ありがとう」って感謝の気持ちになれる事って大事だね。

子

もし、○○ちゃんの周りで困っている人がいたら、どうする？

母

まずは「大丈夫？」って聞いて、困っている事があったら助けてあげたい。みんな助ける。

母

○○ちゃんは困っていたら、助けてあげたいんだね。友達に対しても家族の中で誰かが困っていた時も必ず「どうしたの？」「大丈夫？」って声をかけてくれるよね。人に対して優しい気持ちを持つことが、母さんは嬉しいよ。これからも、その優しさを忘れずにいてほしいと思うよ。

「おしやれキャット」を読んで

二年生

子 執事がネコたちを追い出したところがとてもかわいそうでした。

追い出されたときに、出会ったノラネコたちが、猫たちの家にもどしたあげたところがやさしいと感じました。

さいご幸せにネコたちが暮らせてうれしかったです。

親 大金持ちのおばあさんにとってもかわいがれて暮らしていた猫たちですが、執事のエドガーの一方的な悪意から追い出されてしまいます。理不尽な目にあいながらも、町ののら猫たちに助けられながら、無事に家に帰ることができてよかったです。

現実世界でも理不尽なことや、人の悪意に触れてしまうことは避けられませんが、この町の猫たちのように、みんなが幸せに暮らし続けられると改めて感じました。

「まちがいけしごむ」を読んで

二年生

ぼくはまちがいけしごむの中にでてきたオムくんのようにぼくもあわてんぼうで、解く問題を、あわてて、例えば  $22 + 21 \parallel 43$  なのにひきざんになって1と書いたことがあります。

はじめにこの話を読んだときに、こんなけしごむをつかってみたいと思っただけ、よく考えたら、そんなことで成績を上げても自分のためにならないのでいらないと思いました。

自分が今思ったことは、まず自分のあわてんぼうな性格を直して成績を上げるために毎日コツコツがんばることが大切だと思いました。



子

しつじのエドガーが、とてもいいわるだなと思いました。おばあさんの家とお金をじぶんのものにするために、ネコたちをつれさつてパリのはずれまでつれて行ったからです。

それにくらべてのらネコのオマリーは、ネコたちをおばあさんのおやしきまでつれて行ってあげてとてもやさしいと思いました。

さいごは、のらネコなかまもネコたちをたすけてあげたので、おれいに、おばあさんが、のらネコなかまたちにも家をたててあげました。

やさしいのらネコたちも一しよにくらせて、しあわせになれてよかったと思います。

わたしもこまった人がいたら、たすけてあげたいです。

親

今、オリンピックが行われている「パリ」を舞台にしたお話で、ディズニーマのキャラクターが登場人物に出てきたので、子どもにとつても読みやすい本でした。

自分の欲のために、ネコたちを危険な目に合わせたしつじのエドガー。マリーを助けるために、川の中にとびこむ行動をしたのらネコのオマリー。この両者が最後は、明瞭明快な結末を迎えます。

自分がネコたちにした意地悪が、そっくりそのまま自分に返ってきたオマリー。ネコたちを助けるために、優しい行動をしたのらネコたちは、幸せな環境で暮らせるようになり、ダッチェスたちも、一緒にとても喜んだことでしょう。

今もパリの街を歩けば、おしゃれキャットたちが仲間と楽しく過ごしている姿が見られるかもしれませんね♡

子

オムくんというあわてんぼうの子がいました。そのこは、けしかすをためてけしごむをつくりました。そのけしごむは、まちがえたもんだいしか、けせませんでした。テストであつたらいいなと思いました。まちがいしかけせないのがすごいと思いました。

きりんとぞうのえをじょうずにかけなくてけしたら、本もののきりんとぞうがでてきました。本ものが出てきたらこわそうです。きりんとぞうはどうぶつなのにしやべっているからびっくりしました。わたしはいらないものがけるけしごむをつくってみたいです。たとえば気みがわるいものやゆうれいとかです。

親

あわてんぼうのオムくんの体験を読んで、子どもにはおちついてよく考えてから書くようにしなくては…と思つてほしかったのですがそうはなりません。子どもたちがよく作っている「ねりけし」を題材にしていて親しみやすく、作る材料によつて消える物が違うというのはとてもおもしろいと思いました。読書感想文を書くのは難しいようで、消しゴムを作れそうなくらい沢山の消しカスができました。